

平成

かつしか風土記

地域の継承と文化財

平成28年1月17日 3月6日

発生からまもなく5年となる東日本大震災は、地域と歴史資料の大切さを、今なお私たちに問い続けています。

この展示では、19世紀の天保年間に江戸幕府が作成した武蔵国の地誌である「新編武蔵風土記稿」を読みときながら、かつしかの村々に残された歴史資料を中心に紹介します。地域の歴史の証人である文化財の保全は、今を生きる私たちの使命でもあります。この展示を契機に、過去から現在へ継続するかつしかの歴史をくみとり、未来へ継承する機会としていただければ幸いです。

- 展示構成
1. 新編武蔵風土記稿
 2. かつしかの村
 3. 文化財の保全と継承

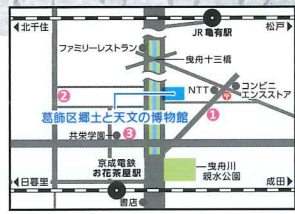


記念講演会
 平成28年2月6日(土)午後2時～4時
 「浄光寺(木下川薬師)の歴史と文化財」
 伊藤義延氏 浄光寺住職

1階には昭和20年代の4×4mの空中写真が登場！ あなたの地域をさがしてみてください。

葛飾区 葛飾区郷土と天文の博物館
 〒125-0063 東京都葛飾区白鳥3-25-1
 TEL 03(3838)1101

<http://www.museum.city.katsushika.lg.jp/>
 この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。



アクセス 駐車場に限りがございます。電車・バスをご利用ください。

電車 JR常磐線各駅停車(東京メトロ千代田線直通)「亀有」駅下車、徒歩25分

バス ①「レインボーかつしか」(有71・有72系統)または京成タウンバス(有70系統)で「白鳥わかば公園」バス停下車、徒歩3分
 ②京成タウンバス(有57系統)で「上千葉小学校」バス停下車、徒歩5分
 ③京成タウンバス(有57系統)で「共栄学園」バス停下車、徒歩5分

平成27年度 特別展 平成かつしか風土記

「新編武蔵風土記稿
正保年中改定図」部分
独立行政法人国立公文書館

天保元年(1830)、江戸幕府が編纂した「新編武蔵風土記稿」は、武蔵国内にあった村や町の地理・歴史・民俗・産業などに関する記録です。葛飾区の母体となる地域は、葛西領といわれ、30数か村の村々がありました。

用水や寺社などの記述には、現在まで継続する事象も多く残されています。また、当時の景観や社寺に伝わる古文書や寺宝とされる古器物がさし絵として描かれています。このなかには、400年の時を超えて、文化財として平成の現在に継承されているものもあります。



東覚寺 十王図



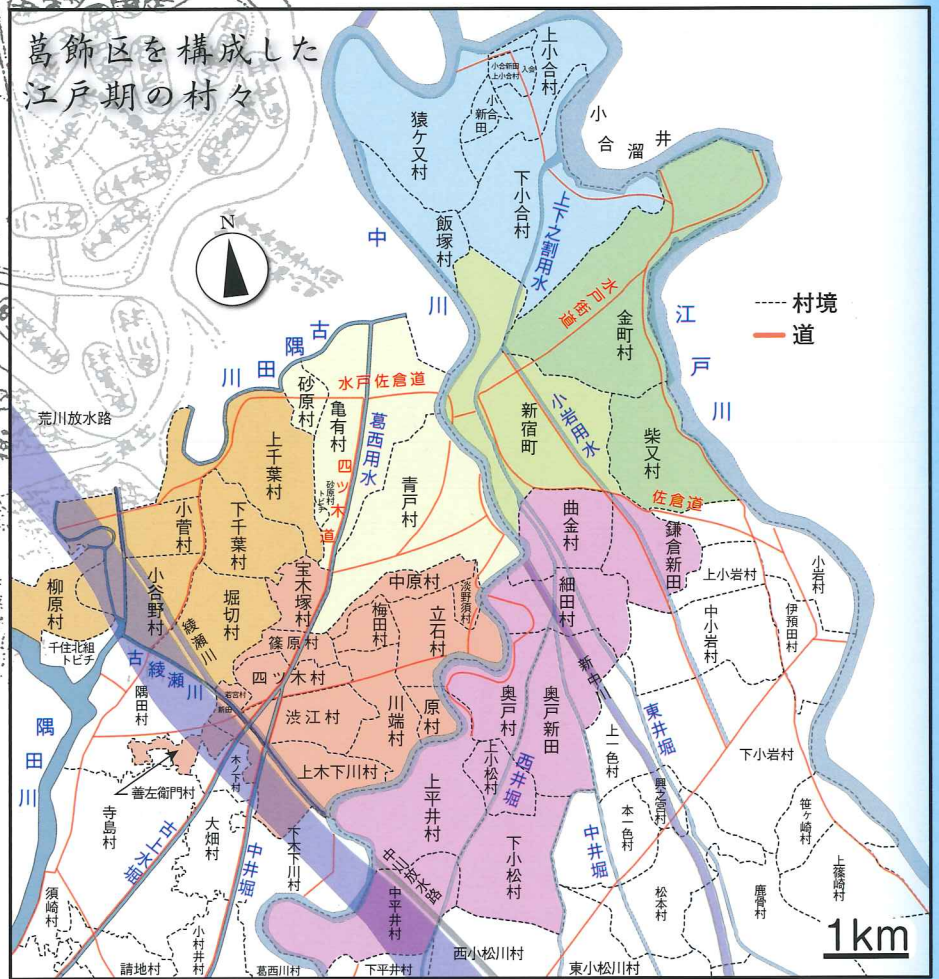
貞林院 瑞正寺 松浦信正公像



半田稻荷神社 舞鳳掬泥背紋八稜鏡



浄光寺 花御堂



旧水元村 旧金町 旧新宿町 旧亀青村 旧南綾瀬町 旧本田町 旧奥戸町 村境 道 昭和期の放水路

「武蔵国葛飾郡第拾老大区縮図」(明治6~11年)をもとに作成

<展示ガイド>

展示資料のキャプションは、資料名、年代、指定、登録文化財の種別をしめしています。また江戸時代の村の村名と該当する現在の葛飾区の町名を併記しました。上記の地図とともに観覧のガイドにしてください。

かみこあいむらえず
上小合村絵図
 延享5年(1748)3月
 登録有形文化財 上小合村/東水元4丁目 個人蔵

開館時間	午前9時~午後5時(入館は閉館の30分前まで)	入場料	大人100円(80円)、小・中学生は50円(40円)
	金曜日と土曜日は午後9時まで開館		小学生未満無料(毎週土曜日は、中学生以下無料)
休館日	月曜日(祝日は開館)、第2・4火曜日(祝日は開館し翌日休館)		※(カッコ内は20人以上の団体)